# 事務事業評価表

## 1．基本事項

作成日　令和03年06月23日（水）

| 事務事業 | 救急活動事務 | 担当課 | 深谷消防署 | 担当係 | 深谷消防署 | 管理番号 | 4519 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第2次総合計画 行政施策分野別名 | | 事業区分 | ■ 自治事務 | □ 法定受託事務 → | 対象拡大 有□ サービス拡充 有□ | | |
| 大項目 | 200004 安心とやすらぎを感じられるまち（暮らし・環境） | 根拠法令個別計画等 | ・消防法<br>・消防組織法<br>・深谷市救急業務に関する規則<br>・深谷市救急業務取扱細則<br>・救急救命士法 | | | | |
| 中項目 | 200001 備えができ、安全・安心なまちづくり | | | | | | |
| 小項目 | 200002 消防・救急体制の充実 | | | | | | |

| | |
|---|---|
| 事業概要 | 管内で発生した各種災害等により負傷した傷病者の状態を的確に判断し、必要な処置を施して適切な医療機関に搬送する。<br>救急資器材の整備及び救急隊員の訓練を実施するとともに、市民に対する応急手当の普及啓発に努め、救命率向上を図る。 |
| 目的<br>※何のために | 傷病者の救命率及び社会復帰率の向上。 |
| 対象<br>※誰・何を対象に | 市民の生命、身体及び財産。 |
| 手段<br>※どのように | 各種災害現場までの現場到着時間と現場滞在時間（病院連絡時間）の短縮を図る。 |
| 成果<br>※何を求めるか | 早期に医療機関へ搬送することで、傷病者の救命率と社会復帰率の向上を図る。 |
| 執行体制 | ■ 市職員　□ 一部委託　□ 全部委託　□ 指定管理　□ 市民ボランティア　□ NPO 民間団体　□ その他（　　） |

事務事業を構成する予算事業

| 会計区分 | 款 | 項 | 目 | 細事業名 | 前年度決算額（円） |
|---|---|---|---|---|---|
| | 00 | 00 | 00 | | 0 |
| | 00 | 00 | 00 | | 0 |
| | 00 | 00 | 00 | | 0 |
| | 00 | 00 | 00 | | 0 |
| | 00 | 00 | 00 | | 0 |

本事業の主な業務

| | |
|---|---|
| ・救急等災害対応業務 | ・救命講習の実施 |
| ・救急資器材の維持管理業務 | ・ |
| ・救急訓練の立案、調整、実施に関する業務 | ・ |
| ・応急手当普及啓発業務 | ・ |
| ・救急活動事例研究 | ・ |
| ・救急活動記録票、統計及び即報の作成事務 | ・ |

## 2．事業費（投入コスト）

単位：円

| 区分 | | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 年度別計画 | | | | | | | |
| 事業費 | 予算（現額） | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 決算額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 財源内訳 国支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 県支出金 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 地方債 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 他特定財源 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 一般財源 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 人件費 | 従事職員数（人） | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 | 0.10 |
| | 人件費相当試算 ※1 | 777,900 | 778,200 | 786,100 | 813,600 | 813,600 | 813,600 |
| | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （総事業費試算） | | 777,900 | 778,200 | 786,100 | 813,600 | 813,600 | 813,600 |

※1　人件費相当額試算は、従事職員数に平均人件費を用いて試算したものです。

# 事務事業評価表

## ３．評価指標

| グラフ表示 | 区分 | 指標名 | | 単位 | 平成29年度 | 平成30年度 | 平成31年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 令和4年度 | 目標なし |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■ | 活動指標１ | 救急出場件数（暦年） | 目標値 | 件 | | | | | | | ■ |
| | | | 実績値 | | 4,942.00 | 4,893.00 | 5,110.00 | 4,658.00 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 年度別目標値の設定根拠 | | 救急出場件数であり目標値の設定に値しない。 | | | | | | | |
| | | 出場件数 | | | | | | | | | |
| ■ | 活動指標２ | 訓練、研修回数 | 目標値 | 回 | 32.00 | 32.00 | 32.00 | 32.00 | 32.00 | 32.00 | □ |
| | | | 実績値 | | 32.00 | 32.00 | 32.00 | 32.00 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 年度別目標値の設定根拠 | | 年間訓練計画に基づく目標値。（実施回数を計上。１回が数か月に渡るもの有。） | | | | | | | |
| | | 実施回数 | | | | | | | | | |
| □ | 活動指標３ | 資器材点検実施率 | 目標値 | % | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | □ |
| | | | 実績値 | | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 年度別目標値の設定根拠 | | １００%の資器材点検を目標とする。 | | | | | | | |
| | | 実施日／３６５日×１００ | | | | | | | | | |
| ■ | 成果指標１ | 資器材常時使用可能率 | 目標値 | % | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | □ |
| | | | 実績値 | | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 100.00 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 年度別目標値の設定根拠 | | 車載されている全資器材の常時使用可能率。 | | | | | | | |
| | | 使用可能数／全資器材×１００ | | | | | | | | | |
| □ | 成果指標２ | 現場到着時間 | 目標値 | 分 | 0.00 | 7.00 | 7.00 | 7.00 | 7.00 | 7.00 | □ |
| | | | 実績値 | | 8.03 | 8.32 | 8.28 | 8.25 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 年度別目標値の設定根拠 | | 救命率が著しく低下していく時間（７．０分） | | | | | | | |
| | | 覚知から現場到着までの時間（過 | | | | | | | | | |
| □ | 成果指標３ | 病院収容所要時間 | 目標値 | 分 | 0.00 | 43.60 | 43.60 | 43.60 | 43.60 | 43.60 | □ |
| | | | 実績値 | | 45.06 | 46.78 | 44.36 | 47.44 | 0.00 | 0.00 | |
| | | 年度別目標値の設定根拠 | | （参考）埼玉県平均病院収容所要時間４３．６分（平成２８年数値） | | | | | | | |
| | | 覚知から病院収容までの時間（過 | | | | | | | | | |

## ４．観点別評価　（A：目標値どおり（以上）　B：ほぼ目標値どおり　C：目標未達成　ー：目標値の設定がないもの）

| | | |
|---|---|---|
| 活動<br>（意図した活動を行っているか） | A | 目標が設定できないものは、活動指標の数値の推移を説明<br>訓練、研修回数は計画通り実施できた。新型コロナウイルスの流行による外出自粛などで救急出場件数は減少した。 |
| 成果<br>（意図した成果が上がっているか） | B | 目標が設定できないものは、成果指標の数値の推移を説明<br>適正に資器材点検を行い、訓練、研修を実施した。また、直近隊出場体制の運用により、現場到着時間の短縮を達成することができた。しかしながら、新型コロナウイルスの流行を受け、病院収容所要時間が延長した。 |
| 効率性<br>（効率的に事務を行っているか） | | 目標が設定できないものは、効率指標の数値の推移を説明 |

| 評価者 | 救急係長　矢嶋克則・宇野泰広 |
|---|---|

## ５．前年度改善改革プラン達成状況

| | |
|---|---|
| 前年度<br>改善・改革案 | 新型コロナウイルスの流行を受け、今まで以上の感染予防対策が必要となっている。感染予防対策を所管している厚生労働省からの指針を参考とし、現場活動において隊員が感染しないように対策をする必要がある。 |
| 達成状況<br>及び<br>その効果 | 標準的な感染予防対策に加え、空気感染予防対策に必要なＮ９５マスク及びゴーグル装着を徹底し、現場活動において隊員が新型コロナウイルスに感染することや感染させることも無かった。 |

# 事務事業評価表

## ６．所属長評価（今後の方向性）

| 事務事業 | 救急活動事務 | 担当課 | 深谷消防署 | 担当係 | 深谷消防署 | 管理番号 | 4519 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

□ ① 現状のまま継続
■ ② 見直して継続 → ■ 成果向上のための改善
□ ③ 拡充・重点化（コスト投入）
□ ④ 目的達成による終了
□ ⑤ 廃止を検討

□ 委託化等の検討
■ 成果向上のための改善
□ 効率化のための改善
□ 事業規模の縮小
□ 他の事務事業と統合

**評価の内容説明**

本事業については、市民の安全、安心を確保する上で欠かすことのできない事業であり、救急件数が増加する中でも傷病者に対し適切な応急処置が求められる。今後においても研修や訓練を重ねながら救急隊の質の向上を図り、病院収容所要時間の短縮を図っていく。

| 評価者 | 深谷消防課長　小林晃昌 |
|---|---|

上記を実施するための具体的な取り組み内容は？

## ７．改善改革プランと今後の課題

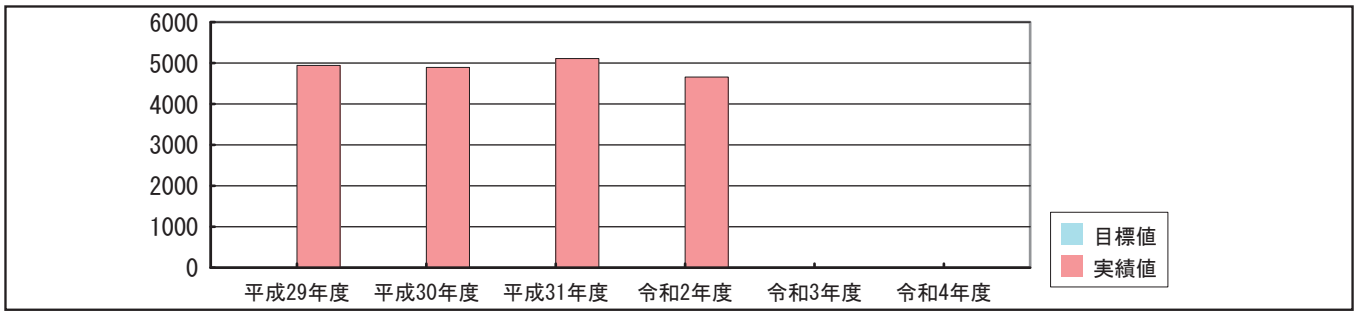
| 改善・改革案 | 新型コロナウイルスの流行を受け、今まで以上の感染予防対策が必要となっている。感染予防対策を所管している厚生労働省からの指針を参考とし、引き続き現場活動において隊員が感染しない、させないように対策をする必要がある。 |
|---|---|

## ８．今後の課題（年度別計画等により実施する取り組み等）

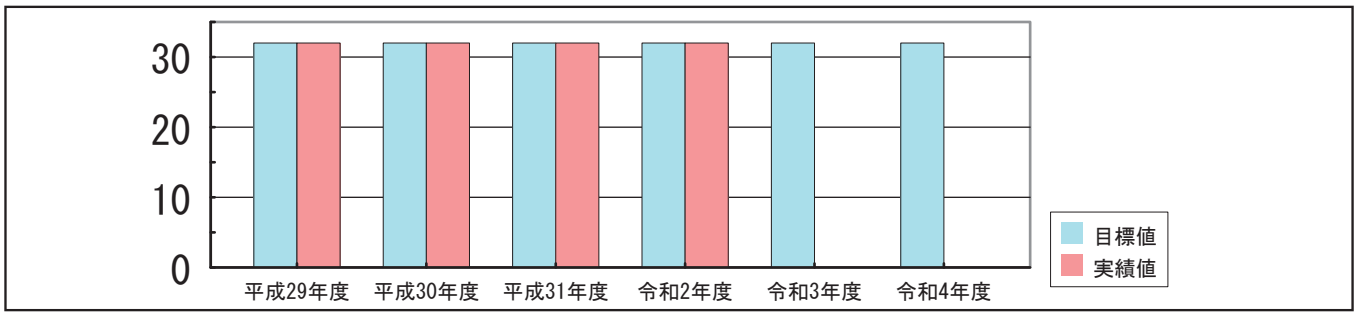
| 今後の課題 | 新型コロナウイルスなどの感染症に対する予防策として、標準予防策、Ｎ９５マスク及びゴーグルの着装を徹底し、帰署後に車両の消毒も行い、隊員から感染者を出さないことが重要である。<br>また、感染予防対策を行うことで、救急現場での活動量が増加し、病院収容所要時間が延長しているが、訓練、研修を実施し、救急隊の質の向上を図ることで、更なる病院収容所要時間の短縮を図る。 |
|---|---|

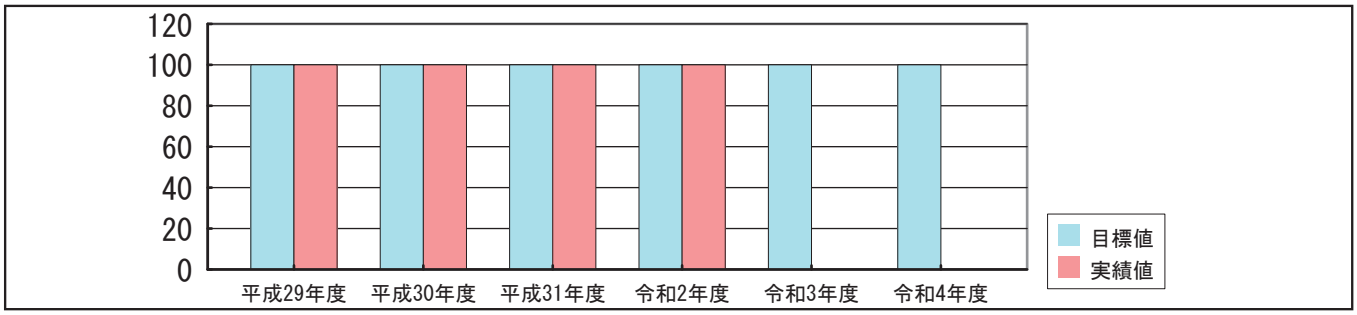
## ９．評価指標グラフ

| 区分 | 活動指標１ | 指標名 | 救急出場件数（暦年） |
|---|---|---|---|




| 区分 | 活動指標２ | 指標名 | 訓練、研修回数 |
|---|---|---|---|




| 区分 | 成果指標１ | 指標名 | 資器材常時使用可能率 |
|---|---|---|---|